

寺だより 極樂寺

平成13年 12月号



本年は激動の一年でありました。これほど宗教の真価が問われたことはありません。この教訓をどう生かすか、来年は更に問われつづけるでしょう。当寺においては正月一日午前11時より初説教を致します。年頭に当たりお檀家の皆様、おそろいでお参り下さい。心よりお待ち申し上げております

雪のうちに
仏のみ名を
唱ふれば
つもれる罪ぞ
やがて
消えぬる



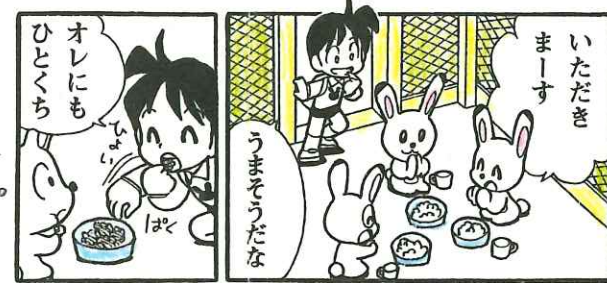
無頓着
「むとんちゃく」とは、字のごとく、頓着しないこと。頓着とは仏教語の食弱（とんじやく）からきた言葉で、深く、気にかける、心配すること。もともと仏教語の食弱はむさぼり求めること、頓着すること、食の字は三毒といわれる「貪（とん）瞋（じん）癡（ち）」のひとつ。これは煩惱の代表的な三つで、むさぼり、いかり、おろかさのこと。頓着と書かれるようになって少し意味が弱まったにしても、なかなか無頓着ではいられませんね、どんなことにも

大意
降り積もった雪が、太陽の光に照らされるとすぐ解けていくように、私達凡夫が知らぬ間に積み重ねている罪も、仏のみ名を唱えたならば直ちに消えてしまうのであります。罪を恐れず、本願を信じて、一心にお念仏を致しましょう。

1月1日(火)
午前11時～初説教
正午～心ばかりのおせち料理



◎初詣は先ず我が家の仏壇から
正月に雑煮を食べ、一家で神社に初詣をするのは、多くの日本人の習慣になっていて、これをしないと、せつかくの晴れ着も見せる場がないし、正月らしい気分がしないという人が多いと思います。
ところで、神社に詣られる前に忘れないでほしいのが、我が家のお仏壇にお詣りすることです。
今日ここにこうして、新しい年を家族そろって迎えることができたのも、それはただの偶然ではなく、はるか昔から、途絶えることなく生命の火を灯しつづけて来てくれた、何代にもわたるご先祖様のおかげであり、そう思えば、こうして人として生まれ、生きていくことを（そこには色々つらいこと、苦しいことがあるにせよ）、深く感謝すべきでしょう。また現在の生活は、実に多くの人々の労働と智慧のおかげだということにも思い至る必要があると思います。
仏壇の前で手を合わせるのには、何かを祈願するというよりも、そうした感謝の気持ち、合掌という形で表すのです。
お子さんたちに、小さいうちから感謝し手を合わせる習慣をつけておくと、きっと心の優しい人に育つと思います。



御挨拶

“住職三年みそ食わず”とは申しますが御尊家皆様のお陰様により教化面も増々充実に向かわせて頂いております。どうぞこれからも御気軽に寺の行事又ご信心の相談等に御参堂を賜りますよう心よりお待ち申し上げます。年末にあたり、この一年間菩提寺に御支援 御協力を賜りました事誠にありがとうございました。来年も相変わらずよろしく願い申し上げます。

一 法話 極樂はもみじより西、指圓堂

この世は、気をもみ続けの人生の旅路。元祖法然上人よりあの世の西の果てが、先祖代々の在す極樂浄土であるとお指圓の通り往生極樂のために私達は心おきなくお念佛を申させて頂きましょう。

